



Data

監督・脚本: ガイ・リッチー
出演: ウィル・スミス/メナ・マ
ード/ナオミ・スコット/マ
ーワン・ケンザリ/ナビド・
ネガーバン/ナシム・ベドラ
ド/ビリー・マグヌッセン

■ショートコメント■

◆最初から「これは観たい!」とは思わず、『凧止め』鑑賞のついでに鑑賞。私は基本的にミュージカル映画が大好きだから、あまりたいしたことはなくとも“時間のムダ”と思うことはないはずだったが・・・。

◆本作の興行収入は良好らしい。新聞紙評でも概ね好評だ。とりわけ、ヒロインの王女様として登場するジャスミン (ナオミ・スコット) は王子様との結婚を夢見るだけの女性ではなく、積極的に王位を継いで自分の国をよりよい国にしたいと願う積極派、行動派というところが本作の特徴らしい。たしかに、それがよくわかり、ジャスミンは魅力的だ。しかし、本来の主人公であるはずのアラジン (メナ・マースド) の出来がイマイチで、ランプの魔神ジーニー (ウィル・スミス) の圧倒的な存在感に喰われてしまっているから、アレ・・・。

◆本作のミュージカル・ナンバーを私は全く知らなかったが、2人が魔法の絨毯に乗りながら歌う「ホール・ニュー・ワールド」はたしかに名曲。ジャスミンの高音が美しく、2人の息もピッタリだ。また、アラジンがアリ王子に化けて王宮前を行進するシーンで歌われる曲も華やかかつリズムカルで満足感いっぱい。しかし、他の曲はイマイチ印象に残るものが少ないから、物語としてイマイチならミュージカル・ナンバーとしてもイマイチだ。

◆かつて、ちあきなおみが歌った「四つのお願い」(70年)で歌われた4つのお願いはいろいろとややこしかったが、『アラジン』のキーマンとなる“ランプの魔人”ジーニーが

叶えさせることができるのは“3つの願い”。すると、ジーニーを味方に付ければジャスミンの父親である国王・サルタン（ナビド・ネガーバン）を倒してナンバー2の男・ジャファー（マーワン・ケンザリ）が国王の座に就くことも可能。俺はいつまでもナンバー2の男ではない。ジャファーがそう考えたのは当然だから、本作のストーリーの核は本来生々しい“権力争い”だが、さあその展開は？

◆たとえおとぎ話でも、その点はしっかり描いてほしかったが、本作はそのリアルさの点でも、邦画の『新聞記者』のレベルまでも行っていないから、その点でもイマイチだ。ディズニー特有の映像の美しさは見事なものだが、魔法のランプの描き方がイマイチだから、ファンタジーの世界にドップリ浸ることができなかつたのは残念。もともと、それは映画のせいではなく、俺が70歳になり、ファンタジーを楽しむ力が失われたことが原因かもしれないが・・・。

2019（令和元）年7月10日記